

平成30年度学校自己評価システムシート (県立飯能高等学校)

W05

目指す学校像	・地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校
--------	--------------------------------

重点目標	1 ステップアップクラス編成を中心に、学力向上と進路実現を目指す 2 人間としての在り方生き方教育を進め、高い志を育成し、自己実現を目指す 3 開かれた学校として情報を発信し、地域に根ざした魅力ある学校を目指す
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ステップアップクラス編成により多様な生徒の進路希望を実現している。英語検定は上位級に合格が毎年続いている。長期休業中の進学補講も定着して来ている。第2学年のアドバンストクラスにおいては模試の全員受検等にも取り組み始めている。 【課題】 勉強の壁等の課題に直面したとき、安易な進路に流れてしまう生徒に対して学習意欲を継続できるか。 英語検定3級不合格者への継続的な指導。 新しい学習指導要領と本校の生徒の希望を実現できる教育課程の検討。	生徒一人一人の進路希望を支援できる学校組織づくりに取り組む	①ステップアップクラス編成改善の評価・検証を行う。 ②学校全体で英語検定に取り組む。 ③模擬試験実施科目の事前事後指導を進路指導部と学年で連携し組織的に進行。 ④年次研修者を中心として、アクティブラーニング等の授業研究を行い、教員としての資質を向上させる。 ⑤学力診断テストやPCを用いたシステムを活用し、個に応じた進路指導を行う。 ⑥本校が目指す学校像に合わせた教育課程を組織的に検討する。	①評価検証をもとに改善の検討を組織的に進めたか。 ②受検者数が増加したか。 ③事前事後指導を組織的に実施できたか。 ④授業アンケートの授業に関する項目に対し80%以上が肯定的な回答をしているか。 ⑤生徒一人一人の適性に合った進路選択が実現したか。 ⑥教育課程の検討が進んだか。	様々な方策を基にして、組織作りが進められた。 ①授業アンケートの分析等により検討を進めている。 ②昨年度に比べ減少したが、合格者数は倍増した。 ③2学期以降、模試の前後指導を計画的に実施できた。 ④肯定的な回答は1学年78%、2学年77%、3学年78%であった。 ⑤模擬試験等のデータを反映するシステム等を各担任が活用し、分析や面談により進路指導が進んだ。 ⑥小委員会を立ち上げ検討を始めた。	A	ステップアップクラス編成については定期的に検証する必要がある。また、授業アンケートを分析し、生徒の実態に応じ、時代に合わせ、改善していくことが必要である。 勉強方法が確立できない生徒に対する指導を工夫し、自ら学べる姿勢を育てていくことも必要である。 教職員研修を通しての学び合いも方策の一つである。 新しい教育課程を組織的に検討し作成する。
2	【現状】 毎月の登校指導や各学期に行う学年集会において行う、重点化した生徒指導により、生徒の整容については一定の評価を得てきている。 【課題】 一般的に向上してきた基本的な生活習慣を、さらに確立させるために全職員で組織的継続的に指導をする必要がある。 引き続き「時間を守る、身の回りの整頓、礼儀正しく」のような基本マナーを身につけさせられるか。	変化のある社会に対応できる力を付ける支援に取り組む	①全校で統一した基準による整容指導等を全教職員で行う。 ②面談等から生徒の状況を把握し必要に応じ、関係機関につなげる。 ③第1学年で導入した手帳を活用していく。 ④効率的な部活動を奨励し活性化を進める。	①年度当初の整容を維持できたか。 ②カウンセリングが必要な生徒をSC・SSW等の外部機関につなげられたか。 ③手帳を活用できたか。 ④上位大会等に出場できたか。	整容指導をはじめとした生徒指導を全校統一できるよう取り組んだ。 ①大多数の生徒は当初の整容を維持しており、指導回数は減少している。粘り強い指導が今後も必要である。 ②担任と保護者との協力により、外部機関との連携が進んだ。 ③手帳はクラス毎の取組差はあるが活用は進んだ。来年度は全学年で導入することとなった。 ④4つの部活動で関東大会以上に出場することができた。	A	地域の方々から整容については年々改善していると好評いただくが、粘り強く指導を続けなければならない状況は変わらない。年ごとに重点を決めた指導を全職員で粘り強く継続していきたい。 また、学校活動を通して、あきらめない気持ちを育てる。
3	【現状】 授業での地域各施設との連携や、部活動での小中学校との連携、ゴミゼロ運動などにより学校外で生徒が活動する機会をいただいている。 【課題】 ボランティア活動への参加。 保護者アンケートではホームページの更新を求める声が多い。また、生徒募集においても本校の魅力発信という面で有効な手段であることを踏まえ、組織的に情報を更新したい。	地域との連携事業を通し、学校の魅力発信に取り組む	①地域の行事・ボランティアに参加する。 ②ホームページ更新、学校だよりの公共施設等への配付により学校情報を発信する。 ③中学生のニーズに合った学校説明会を時期・内容を検討し、実施する。 ④管理職・中高連携委員を中心に塾等へ生徒募集を行う。	①地域への行事に参加できたか。 ②ホームページを80回以上更新し、学校だよりを配布できたか。 ③④入試の倍率が1.20となったか。	校外での生徒の活動や学校説明会などを通し学校の魅力を発信できた。 ①算数ボランティア、市内小学校での陸上教室、ゴミゼロ運動、お琴教室に加え、新たに理科の科学実験教室を実施した。 ②「日誌」を64回更新。その他についても更新が進み、合計80回を超えた。 ③学校説明会を7回実施し、参加者も増加した。在校生、卒業生の協力もあり、本校の魅力を発信できた。入試の倍率は1.26倍となり当初の目標を達成した。 ④中高連携委員を中心にして塾訪問を実施した。	A	卒業生を含めて、地域から飯能高校は期待されている。 ホームページでの広報に加え、地域の新聞への投げかけなど、学校の魅力を発信できる機会を増やしていきたい。 学校の魅力の発信については各分掌で検討し協力する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップクラス編成がより効果的に機能するよう、授業アンケート等を分析し、研究を進めて欲しい。 ・英検については、かなりの成果があがっていると感じる。生徒に達成感を与えられるだけでなく、進学等にもつながっており、更にながらばしてもらいたい。 ・授業を見ると年々よくなっている。しかし、まだ家庭では勉強していない生徒も多く、今後対策を考えていく必要がある。 ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べると服装等もだいぶよくなっている。保護者アンケートにあるほどひどい生徒は少ない。一気には変わらないので、少しずつ変わるよう更に指導して欲しい。 ・文字を書く習慣が少ない生徒にとって、手帳はよいと思う。大学でも就職活動等で有効に活用できている。高校の早い段階から活用が進めば、一層効果があがるだろう。 ・達成度Aは妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・説明会がうまくいっていることがアンケートからもわかる。入試の倍率が高くなっているのは、周りからの評価と受け止めてよいだろう。 ・算数教室では、マンツーマンのような形で面倒見てもらった。教えることの楽しさを感じている生徒が多い。さらに交流を深めていけるとよい。 ・生徒会からはボランティア活動をやりたいという意見が出ている。商工会・観光協会等若い力が必要なので、協力して欲しい。 ・達成度Aは妥当である。 	